

EM を暮らしに活かすワークショップ方式で開催 善循環の集い in 群馬

梅雨入りが心配されたが、晴れ時々曇りの天気にも恵まれた 6 月 2 日（土）、群馬県伊勢崎市の伊勢崎市民プラザで「暮らしを変える発酵のチカラ！」と題し、善循環の集い in 群馬が開催された。

このイベントは、地元の EM ネット群馬、伊勢崎有機農業研究会、足利美土里探偵団を主体として、善循環の集い in 群馬実行委員会（柴田和明実行委員長）が主催した。

善循環の輪の集いは、平成 17 年より全国各地で開催しており、この群馬での集いは 103 回目になり、群馬県としては 2 回目。

今回はスマホやパソコンで SNS を暮らしに取り入れている若い世代、とりわけ環境や安全な食に関心の高い子育て世代にも EM の素晴らしさを暮らしに活かす良い機会とらえ、ワークショップ方式を取り入れた。

参加希望者を募る新たな方法としてインターネットを活用。生活にインターネットを利用している方々に限られることもあり、参加者の集まり具合が心配されたが、約 180 名の方々が参加し、半数が子育て世代の若者で、主催者の思惑と重なり、これで主催者のご苦労は幾分なりとも報われたのではないだろうか。

EM 活性液作り、EM ポカシ作り、廃油 EM 石鹼作りの 3 講座を 2 部構成し、一人 2 講座を体験できるようにした。それぞれの講座にはベテランの講師とアシスタントとして「エコクラブ」の子供たちも手伝った。参加者個々が分かりやすいように、最初にパワーポイントによる映像で作り方や効能などを見せ、その後、実技で教え、自分で出来るようにと熱心に教えていた。

講師を務めた方は「この講座で身に付けた作り方を暮らしに取り入れて、環境に優しい生活に役立ててほしい」と語った。また親子ずれの参加者の方は「今回は活性液とポカシ作りだったので、次回は廃油 EM 石鹼作りを教えてください」と。

善循環の集いで参加者が一番望む EM 開発者の比嘉照夫教授の講演は、午後 1 時過ぎからは初心者にも分かりやすい内容を話され、塩や炭を使った最新技術は夜 6 時からの特別講演と 2 回行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。

【取材：大山正治】



来場者に大人気の EM 活性液作り



ご家族での参加が多かった EM ポカシ作り



若い子育て世代が多く参加した廃油 EM 石鹼作り